

(22) 沿岸育成場を利用したキジハタ、オニオコゼの増殖技術の開発

予算

農林水産省：新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業

結果の概要

キジハタとオニオコゼは以前より栽培漁業が行われ、放流効果を実証する段階に入っているが、放流技術は未完成で、育成魚礁や藻場の保護効果は実証されていない。そこで、瀬戸内海の複数県が共同で、育成場に種苗を放流して保護効果を定量評価するとともに、放流技術の開発を行った。

大阪府では、簡易育成礁を設置した海域にキジハタ種苗を放流し、対照区との回収率の違いから育成効果の評価を行った。その結果、簡易育成礁に放流した小型種苗の回収率は対照区よりも高くなり、育成礁は放流種苗の生残率向上に大きな効果を果たしていることが明らかとなった。

調査方法

1. 調査期間

2009年6月～2013年3月

2. 調査項目

1) 簡易育成礁の設置と種苗放流

簡易育成礁を設置した堺市地先を実験区、泉大津市地先を対照区とし、2009～2011年に大型と小型のキジハタ種苗の比較放流を行った。

2) 放流効果調査

試験操業、漁業日誌調査等から採捕個体のデータを収集した。

調査結果

表1、2のとおり。

担当者

有山啓之、鍋島靖信、辻村浩隆

表 1 キジハタオコゼ 種苗放流結果

放流日	場所	全長 (mm)	尾数	標識
2009/9/3	実験区	51	9,406	右腹鰭抜除
2009/9/4	対照区	51	9,595	右腹鰭抜除
2009/10/20	実験区	100	4,600	耳石ALC+左腹鰭抜除
2009/10/19	対照区	100	4,600	耳石ALC+左腹鰭抜除
2010/9/21	実験区	61	5,340	耳石ALC+右腹鰭抜除
2010/9/22	対照区	61	4,551	耳石ALC+右腹鰭抜除
2010/10/18	実験区	89	779	左腹鰭抜除
2010/10/19	対照区	89	953	左腹鰭抜除
2011/9/29	実験区	71	8,558	耳石ALC+右腹鰭抜除
2011/9/30	対照区	71	8,396	耳石ALC+右腹鰭抜除
2011/10/28	実験区	100	4,696	左腹鰭抜除
2011/10/30	対照区	100	5,014	左腹鰭抜除

表 2 キジハタオコゼ 放流魚採捕結果

採捕日	場所	TL	耳石ALC	腹鰭欠損	放流年	大型/小型	漁法等
2011/7/25	泉大津	210	○	○	2009	大型	刺網
2011/7/25	泉大津	207	○	—	2009	大型	刺網
2011/7/25	泉大津	192	○	○	2009	大型	刺網
2011/7/25	堺	207	—	—	2009	小型	刺網 ※
2011/7/25	堺	203	—	—	2009	小型	刺網 ※
2011/7/25	堺	198	—	—	2009	小型	刺網 ※
2011/7/25	堺	198	○	—	2009	大型	刺網
2012/7/6	泉大津	274	○	—	2009	大型	刺網
2012/7/6	泉大津	280	○	—	2009	大型	刺網
2012/7/6	泉大津	280	—	○	2009	小型	刺網
2012/7/11	堺	228	○	—	2010	小型	刺網
2012/8/21	堺	220	—	○	2010	大型	遊漁
2012/8/24	堺	200	—	○	2010	大型	遊漁
2012/9/4	堺	160	—	○	2011	小型	遊漁
2012/9/29	堺	276	—	○	2009	小型	刺網
2012/9/29	堺	249	○	—	2009	大型	刺網
2012/9/29	堺	252	○	—	2009	大型	刺網
2012/9/29	堺	275	○	—	2009	大型	刺網
2012/9/29	堺	218	○	○	2010	小型	刺網
2012/9/29	堺	221	○	○	2010	小型	刺網

※サイズや採捕状況から放流魚の可能性が高いので記載した。